

1. 目的

モニタッチを経由して、温調/インバータと PLC 間でデータの読み書きを行います。



- ビットが ON したタイミングで読み書きする場合 方法は次の2通りです。
  - ・転送テーブル 同期読み込み/同期書き込み (3-1-1参照)
  - ・グローバルマクロ (3-2-1参照)

例) ビットが OFF→ON したタイミングで、PXR の PV 値#31001 を PLC メモリ D500 に転送



Hakko Electronics Co., Ltd.

テクニカルインフォメーション	No. TI-M-1066	2⁄8
テクニカルインフォメーション	No. TI-M-1066	2⁄8

# 2. 定期的に読み書きする場合

## 2-1 転送テーブルを使用する場合

- 設定手順
  - ① [システム設定] → [転送テーブル] → [PLC2] からテーブル No.0 を開きます。 システム設定(Δ) ツール① ウィンドウ(Δ) □ 編集機種選択(Δ)...

■ 接続機器設定(C)		転送テニブル・PL 0.2 🔽
転送テーブル(工)	PLC1 ( <u>1</u> )	
PLC通信(P)	PLC2(2)	No. 0 😭
温調器/PLC2Way通信①	PLC3(3)	
Ethernet)通(言( <u>E</u> )	PLC4(4)	
拡張通信(C)	PLC6( <u>6</u> )	
本1本設定(2)	PLC7(7)	
🧧 フォント設定(E)	PLC8( <u>8</u> )	

[PLC2 メモリ]に#31001を設定します。

	夏送テーブル:PLC:	2[0] 編集(				×
No.	PLC2メモリ	名称	データ形式	→ 転送先メモリ1	→ 転送先メモリ2	^
0	#31001	測定値(PV)	ワード	D00100	\$u00100	
1	PL C2 XŦ9 🔍 🔽 🕇 31	1001				
2						
3						~
<					>	

③ [編集] → [転送テーブル設定]を開き、次のように設定します。

編集(E) 表示(V) 登録項E	転送テーブル設定[0]
■ 元に戻す(U) Ctrl+Z ■ やり直し(B) Ctrl+Y	機能 定期読み込み
ぜ切り取り① Ctrl+X     Ctrl+C     つピー(©) Ctrl+C     記り付け(P) Ctrl+V     挿入①     調(Pa(D))	読み込み周期 高速読み込み 2 \$ sec ✓ → 転送先メモリ1 PLC1/モリ ✓ 0 \$ D ♥ 00100 \$
A148502/ 追加(A) 複数コピー	★     ば送先メモリ2     横能     : 定期読み込み     読み込み周期     ・     2sec
転送テーブル設定( <u>S</u> ) コメント(M)	
全て選択(L) Ctrl+A 全て消去( <u>A</u> )	ロ転送先メモリ 2 : チェックなし

#### ④PLC2メモリに温調器のアドレスを順に登録します。

	転送テーブル:PL	C2[0] 編集(	)			転送先メモリは
No.	PLC2メモリ	名称	データ形式	→ 転送先メモリ1	→ 転送先メモリ2 🛛 🔥	
0	#31001	則定値(PV)	ワード	D00100		連畨になります。
1	#30011	タイマ1現在カウント値	ワード	D00101		
2					×	
<	1	1			>	
-						

→→→ PLC2 の転送テーブルで PLC1 メモリから PLC2 メモリに転送したい場合は、 ● 機能を[定期書き込み]にします。

以上で設定は終了です。

テクニカルインフォメーション	No. TI-M-1066	3⁄8
テクニカルインフォメーション	No. TI-M-1066	3⁄8

### 2-2 イベントタイママクロを使用する場合

- 設定手順
  - ① [登録項目] → [マクロブロック] からマクロブロック No.0を開きます。



② [表示] → [サポートダイアログ] をクリックして [マクロ編集サポート] を開きます。

M マクロブロック No.(	D (	)[無題.V8] - マク	ロエディ	2		X
ファイル(E) 編集(E)	表示(い) ヘルブ	,(H)				
🛛 🐱 🗗 🗮 🗙	ツールバー(①		•	B	;;; [2]	6
(選択したコメント	サポートダイアロ	1グ(S)				
0	ジャンプ(」) 前のページへ 次のページへ 未登録画面の	Ctrl+G Ctrl+PageUj Ctrl+PageDi スキップ( <u>K</u> )	o own			~
<u>&lt;</u>	文字サイズ(Q) 表示言語(L) メモリ設定メニュ	L−( <u>M</u> )	;		>	

③ [マクロ編集サポート] を次のように設定した後 [挿入] をクリックします。 マクロブロックに書き込まれたことを確認し、ダイアログを閉じます。

マクロ編集サポート	$\mathbf{X}$	
転送 BMOV CVMOV F0 = F1 CVMOV F0 → F0 = F1		カテゴリ : 転送
CVSMOV FILL		
MOV		F0 : D100
		F1 : #31001
F0 F1		
		<ul> <li>PLC1 メモリから PLC2 メモリに転送したい場合は</li> <li>F0:#31001、F1:D100 にします。</li> </ul>
		<mark>増 マクロブロックNo.0(    )[無題.V8] - マクロエディタ                                    </mark>
		🔏 ĥ 🖹 X 📁 🖂 👪 🛍 🔩 🌰 🗭 🕼 🖳 拱 🖽 🙆
	ŕ	0 PLC1[D00100] = PLC2[#31001] (₩)
データのサイズ ③ WORD ○ DWORD		
	~	
	l	<i>τ</i> γ
豆知識		
<b>複数のメモリを転送したい</b>	`场î	ni、 連番メモリでめれは BMUV の使用をお勧めします。
┣ 詳しくは 『マクロリファレ	<i>、</i> ンフ	ス』を参照してください。

Hakko Electronics Co., Ltd.

- テクニカルインフォメーション No. TI-M-1066 4/8
  - ④ [システム設定] → [マクロ設定] を開きます。
     [イベントタイママクロ] タブで次のように設定し、[OK] で閉じます。



以上で設定は終了です。

テクニカルインフォメーション	No. TI-M-1066	5⁄8

# 3. ビットが ON したタイミングで読み書きする場合

#### 3-1 転送テーブルを使用する場合

- 3-1-1 設定手順
  - ① [システム設定] → [転送テーブル] → [PLC2] からテーブル No.0 を開きます。

システム設定(A) ツール(D) ウィンドウ(W)	
□編集機種選択(M)	
署 接続機器設定(○)	転送テーブル: PLC2 X
転送テーブル( <u>T</u> )	■ PLC1(1)
PLC:通信(P) 温調器/PLC2Way通信(T) Ethernet)通信(E) 拡張通信(C) 本体設定(S)	■ PLC2(2) ■ PLC3(3) ■ PLC4(4) ■ PLC5(5) ■ PLC6(6) ■ PLC6(6) ■ PLC7(7)
■ フォント設定(E)	I PLC8(8)

[PLC2メモリ]に#31001を設定します。

	え送テーブル:PLC	2[0] 編集(				×
No.	PLC2メモリ	名称	データ形式	→ 転送先メモリ1	→ 転送先メモリ2	^
0	#31001	測定値(PV)	ワード	D00100	\$u00100	
1	PLC2XEV 🗸 #3	1001				
2		1				
3						~
<					>	

③[編集]→[転送テーブル設定]を開き、次のように設定します。

編集(E) 表示(V) 登録項E	転送テーブル設定[0]
■ 元(E戻す(U) Ctrl+Z ■ やり直し(R) Ctrl+Y	機能 同期読み込み 🔹
※ 切り取り① Ctrl+X  Cbコピー© Ctrl+C	読み込み周期     □ 高速読み込み     10     ● sec     sec     10     ● sec
<ul> <li>         ・EBD付け(P) Ctrl+V         </li> <li>         挿入(P)         </li> <li>         前除(D)         </li> </ul>	✓→転送先メモリ1 PLC1メモリ ● ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
追加(A) 複数コピー	★ ● ◆ 転送売メモリ2 内部 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●
転送テーブル設定(S)	全テーブル(No.0-31)共通設定         PLC1 メモリ D500           制御メモリ         ーホンパル・ローバーの
	PLC1y世 ● ● ● M ● 00000 □転送先メモリ 2 : チェックなし 制御メモリ : PLC1 メモリ MO
全て消去( <u>A</u> )	
	OK キャンセル

④PLC2 メモリに温調器のアドレスを順に登録します。



以上で設定は終了です。

Hakko Electronics Co., Ltd.

# 3-1-2 同期読み込み/書き込み実行手順

[同期読み込み/同期書き込み]は制御メモリで実行します。 制御メモリnから連番で4ワード使用します。

制御メモリ n	内容	メモリタイプ		
n	はカリカ / 書きりカ指令 イエリ			
n+1		→ v		
n+2	まっこう / 書よこった短くエリ			
n+3	記の込み1音さ込み唯認メモリ	~ v		

①制御メモリnの0ビット目を0FF→0Nします。

転送テーブル No.0 が実行されます。

n

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	┥ービット No
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	<b>∢</b> ¬
×														転送;	テーブル No.0 ~ 15		

②制御メモリ n+2 の 0 ビット目が ON したことを確認して、①で ON したビットを OFF します。 n+2

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	┥ービット No
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	~	0	<b>▲</b> ¬
	転 制 自	送う  御ゝ 動て	テー・ メモロ ご 0F	ブル リn Fし	No. の 0 ます	0の ビッ	動作 ット	■完了 目が	了時 0FF	に 01 する	Nし ると、	ます、	o		転送	テーブル No.0 ~ 15

テクニカルインフォメーション No. TI-M-1066 7/
---------------------------------

## 3-2 グローバルマクロを使用する場合

- 3-2-1 設定手順
  - ① [登録項目] → [マクロブロック] からマクロブロック No.0 を開きます。



② [表示] → [サポートダイアログ] をクリックして [マクロ編集サポート] を開きます。

🍽 マクロブロック No.(	)(   )[無題.)	) [無題,V8] - マクロエディタ							
ファイル(E) 編集(E)	表示(い) ヘルプ(日)								
🛛 🕹 🖻 🗙	ツールバー(1)	•	8 # 8 🕹						
(選択したコメント	サポートダイアログ( <u>S</u> )								
0	ジャンプ(J) 前のページへ 次のページへ 未登録画面のスキップ(K)	Ctrl+G Ctrl+PageUp Ctrl+PageDown							
<	文字サイズ(©) 表示言語(L) メモリ設定メニュー( <u>M</u> )	* * *	>						

③ [マクロ編集サポート] を次のように設定した後 [挿入] をクリックします。 マクロブロックに書き込まれたことを確認し、ダイアログを閉じます。

マクロ写集サポート         マ           ●記述         ●           ●MOV CVMOV CVMOV FIL         F0 = F1 F1.077-夕をF0に書き込みます           F0         F1           D00500         = #31001	カテゴリ : 転送 コマンド : MOV F0 : D500 F1 : #31001
	♀ PLC1 メモリから PLC2 メモリに転送したい場合は ♥ F0 : #31001、F1 : D500 にします。
データのサイズ ○ WORD ○ DWORD 1 挿入コメント 上書 ■ PLC1[D00500] = PLC2[#31001] (W)	Im       マクロエティタ       ●         ファイル(P)       編集(P)       表示(M)       ヘルブ(H)         ジロ・ロン・ロック       ●<
複数のメモリを転送したい場合	、連番メモリであれば BMOV の使用をお勧めします。
詳しくは『マクロリファレンス	』を参照してください。

④ [システム設定] → [マクロ設定] を開きます。[全般] タブで次のように設定し、[OK] で閉じます。



以上で設定は終了です。

3-2-2 グローバルマクロ実行手順

①グローバルマクロメモリに実行するマクロブロック No. を格納します。

②読込エリア n+1 の 8 ビット目を 0FF→0N します。

マクロフロックが実行されます。																					
システム	」設定(A	<u>り</u> ツ-	-M(II)	ウィンド	י <u>ל</u> ₩)		-€ ±	<del></del> 鏡機	番設定												×
□ 編集機種選択(M)								□ ■ V810T (640 * 480) 32K ▲ 読込/書込エリア GD-80互換											_		
點接続機器設定(C) 転送テーブル(T)					→		□ 読込/書込エリア ■ PLC1:CN1: 三菱 ■ PLC2:M12: □支				読込エリア		PLC	1月1月	• 00000	\$					
							×	PLC3 :	未接続	.⊞⊥		書込エリ	7	PLC	17月	♥ 0	¢D	▶ 00050	*		
			- × PLC4: 未接続 - × PLC5: 未接続 - × PLC2: 未接続 - × PLC1 ▼																		
<読	<読込エリア n+1>																				
15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00						
								0	0	0	0										
⑥グローバルマクロ実行 [0 → 1] (エッジ)																					

③書込エリア n+1 の 8 ビット目が ON したことを確認し、②で ON したビットを OFF します。

【お問い合わせ】 発紘電機株式会社 技術相談窓口 TEL:076-274-5130 FAX:076-274-5208